

<p>団体名</p>	<p>冒険遊び場 てんぐりかっぱ</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>里山と共に“ののほな”な子どもの社会的自立を促すフリースクール基盤づくり事業</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>『子どもの幸せ 里地里山の元気』 私達がめざすのは、「豊かな自然や多様な人や動植物や暮らしや世の中が、子ども達をありのままに受け入れ元気にし、その子ども達が遊びや学びを生かして里地里山を活性化する好循環社会」である。</p> <p>『子どもの幸せと里地里山の元気の好循環が生まれる社会の特徴』</p> <p>① 不登校やDV等の生きづらさを抱えても、誰もが多様な動植物や人や自然に包まれて、ありのままの姿でいられる。</p> <p>② 季節・生き物・暮らし・世の中の動き・人々の刺激から生まれる興味や個性を大切にできる。</p> <p>③ その学びや自分らしさを里地里山の自然・人・世の中に生かして、充実した生活が送れる。</p>		<p>里山の環境を生かした活動</p> 	<p>地形を生かした遊びが生まれた。はじめは怖くて、滑ることも出来なかったが、勇気を出してやってみたことで自信が付き、他者を巻き込んだり大会のイベント開催に発展した。この過程には、本団体の安心安全に過ごせる「居場所」と、調べたり試したりできる「学びの場」、自分のアイデアを発揮できる「活躍の場」としての機能が働いている。</p>
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>『4つの自分磨きに励める3つの場×関係性づくり=社会的自立に向けた段階欲求の充足』</p> <p>私達は、子どもや親が、たとえ不登校やDV等の生きづらさを抱えても、社会的自立に向かってマズローの段階欲求を満たしていけるように、次の4つの自分磨きに励める3つの場と関係性づくりに取り組む。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●人的資源：常勤運営スタッフ（子どもの環境構成・行動科学等の援用・保護者やサポーターとの連携・広報・資金調達・事務・経営）に加え、非常勤スタッフ、ボランティアが複数名、活動すること。</p> <p>●物的資源：子どもが活動で用いる絵本や道具等の教材・教具、雨風がしのげる学習スペース、子どもの在籍校との連携や調べ活動等に活用する情報通信環境があること。</p> <p>●活動資金：団体の裁量・工夫の余地の大きい自主財源（会費・寄付・自主事業）を十分に確保し、子どもの社会的自立に必要なタイミングで、効果の高い支出を行える財政力を保持していること。</p> <p>●情報：活動の中で培ったノウハウが効果を上げる中で、団体の事業運営・人材育成・保護者支援に関するマニュアルが順次、スタッフの手により充実されるというサイクルが回ること。</p>			
<p>■活動報告</p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>オルタナティブスクールを開校して週3回と月1回、季節ごとの生き物や自然、福山市の博物館や名産物等を楽しめる居場所、自然/社会科学への興味関心を促す学び場、経験や学びを誰かや何かに役立てる活躍の場を提供した。当初は、子どもの表情が硬く、スタッフにも緊張している様子があったが、「緊張してドキドキするよね」と肯定的に受け止めていく内に、表情が和らぎ喜怒哀楽を表現するようになった。傷つき経験から人とのコミュニケーションに不安を抱えていた子どもは、仲間やスタッフとの関わりを経て、自ら話し始めたり、初対面の人とも話したりするようになった。子育てに徒労感を抱え命を落とすことも考えていた親子は、本団体と出会い、子育てに前向きになり、ここでの関わり方を家庭でも取り入れ、通学当初より少しづつ安定傾向にある。</p>		<p>◆スクール活動は、週3定期参加児童を3人確保でき、社会的自立に向けて「情緒安定/仲間づくり/自然等をたっぷり味わう」がどの児童もⅡ段階以上に成長した。その他延べ84人の体験者と、週1回～月1回程度繰り返し参加する3人が川遊び、備後餅製作、グミ作り等を堪能し、生きづらさを抱える児童の居場所を提供できた。</p> <p>◆子育て支援活動は座談会を含めて5回実施し、子育てのヒントや活力が得られたと好評だった。(座談会:とても満足60%、やや満足40%、カラーセラピー/南修治トークライブ:子ども理解/活力の項目100%) 座談会の参加理由は「学校に行けなくても未来の選択肢を減らしたくない」「活動について知りたい」等、本団体が多様な学び場の一つに認められつつあることが分かった。</p> <p>◆「本団体のめざす活動基盤」を約60%達成した。</p>		
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		
<p>◆活動資金:広報や資金調達に課題はあるが、Instagramでの発信、メディアへの出演、関連団体のイベントへの出席等により、利用者が増え、収入が月平均約126,000円に増加した。</p> <p>◆人的資源:フリースクールスタッフ養成講座受講により基礎的な知識が得られ、現場で実践することでステージⅠだったスキルが全5尺度Ⅱ以上に上がり、内2尺度はⅢに到達した。非常勤スタッフの入れ替わりがあったが常勤2名、非常勤2名、顧問1名、運営や活動の緩やかなサポーター8名の体制を整えることができた。</p> <p>◆物的資源:周辺地域との連携や寄付によりタブレットや学習スペースを整えるめどがついた。</p>		<p>本事業を利用している不登校などを経験した児童とその親の統計はある程度取れたが、利用していない場合の統計や、そもそも必要としていない場合の統計が不足している。</p> <p>そこで、この1年間で、本事業以外の繋がり（不登校の親の会3団体、子育て世代のオープンチャット1団体）を拡充したため、それらを活用して昨今の不登校児の実態や、公教育に対する価値観など広域に統計を取っていききたい。それらを分析して、情報が届けば利用が期待できる層にも届けていきたい。</p> <p>受益者に対しては、引き続き統計を取り、ニーズと事業が一致しているかを検討していきたい。</p>		
<p>この1年間の活動を通じて</p>			<p>子どもたちが安心してありのままに過ごす環境づくり</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p>				
<p>大人の目を気にして「あれやっついかな…」と不安そうにしていた部分があったが、1年を経て「これやりたいんだけど…」「あそこに行きたい！」と発信するようになった。不登校等で悩んで悶々としていた表情は、今となっては生き生きとしています。</p>				